



平成24年2月号

発行:卒業臨床研修センター

センターの活動予定

- ◆3月22日(木) 研修修了式
- ◆3月下旬 センター通信 3月号発行



研修医 体験談 第2回 江口耕平 先生

研修医2年目の江口耕平といいます。皆さん大学病院での研修というとどんなイメージをお持ちでしょうか？よく言われるのが、大学病院では「症例が少ない」「難しい症例ばかりでcommon diseaseを診る機会が少ない」「手技の習得のチャンスも多くない」ので、市中病院で研修したほうが断然いい、ということですが本当にそうなのでしょうか？二年間の経験を元に話したいと思います。



実際のところ僕は多くの外病院を経験しておらず、他の研修医からの伝聞なども含めての話になりますが、まず、経験症例数については確かに外病院に比べて少ないかもしれませんが、しかし、症例が少ないということは各症例についてそれだけ深く勉強する時間がある、ということです。各疾患の症状や病態に対して脊髄反射的なルーチン対応ができることも大切ですが、深い洞察を基に、正確な判断を可能にする知識を得ることはより重要ではないでしょうか。次にcommon diseaseですがこれは大学病院、というよりは旭医であれば十分に見ることができます。というのは市内に総合病院が多くないため医者が市中病院的役割も担っているからです。(研修する科にもよりますが実際に肺炎の即入はよくありましたし、イレウス、慢性腎不全、慢性心不全なども見る機会は多かったです。)逆に基礎疾患が多岐にわたる分、治療や投薬に制限がある、重症化しやすいなどむしろcommon diseaseの幅広さは大学だからこそ見ることができます。手技については市中病院のほうが習得が早いのは同期の話を書く限り間違いありません。しかし、大学の研修では2年目に市中病院での研修が可能なので、そこで数ヶ月研修することで挽回は(おそらく)可能です。逆に大学で研修するメリットについてはあまり言われることがありませんが、カンファレンス、すなわち自分の診断・治療方針に対しフィードバックされる場があるというのが非常に大きなメリットです。つまり自分の勉強に不足のある点や考え方のずれを修正する場があるということです。また多くの医師がいるため様々な考え方を学ぶことができます。つまり大学病院とは医師としての診察・診断・治療にかかわる文献の調査から考え方、方針決定のプロセスを習得する上で非常に優れた場ということが出来ます。また多くの医師がいるので、こうりたいという理想の医師像を見つけやすいとも思います。(僕自身もこうありたいと思う先生がいます。)

研修も終わりに近くなり、もっと勉強するべきだったとか積極的に動くべきだったとか後悔することも多いですが、少なくとも大学での研修を選んだことは後悔していませんし、むしろとてもよい研修をすることができたと思っています。



【報告1】母校の講座を知ろうを開催しました。

平成24年2月16日(木)、20日(月)、21日(火)に1~3学年を対象に「母校の講座を知ろう」開催しました。総勢145名の学生が参加し、アンケートでは8割以上の方から良かったという感想をいただきました。また、「講座を知る良い機会になった」「研究に興味湧いた」等の感想も寄せられ、有意義だったと考える回答を多数いただきました。今後も卒業臨床研修センターでは、大学や病院、本学の研修プログラムのことを学生に知ってもらう機会を積極的に企画していきたいと考えています。



【報告2】研修医セミナーを開催しました。



2月22日(水)に、単眼測像鏡・双眼測像鏡を用いた研修医セミナー「眼底検査法」を開催しました。参加研修医が少数だったので、今回は眼科外来をお借りしての開催となりました。ご指導くださった高宮先生、ありがとうございました。

「母校を知ろう!!」

卒業後の研修先を決める際の参考にしていただくために、まず母校について紹介します。その方法としてまずこの紙面で順次1講座ずつ紹介します。さらに大学や病院内の様々な部署の教員の方から具体的な仕事の内容、働きがいはどこにあるのか、将来はどんな道が開けているのかなどをご紹介します。

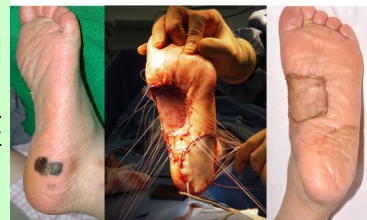
母校の紹介 第2回 皮膚科学講座

他大学と大きく異なる本学の皮膚科学講座の特長は診断に必要な皮膚病理診断を講座内で行っていることと形成外科的な手術を行っていることです。

まず病理診断を自前でやっているため、皮膚病の肉眼診断、病理診断、そして治療を一貫して担当することができます。他大学の多くは病理部が診断するため、担当患者さんの診断を自分でつけることができないということがあります。手術後に病変がとりきれているか、といったことも自分の目で確認して患者さんに自信をもって伝えることができるのです。

第2の特長である手術を広く行っているのは本学には形成外科学講座がないことと、国立癌センターや皮膚がん治療で有名な虎ノ門病院で研修した専門医が当科に在籍しているためです。また市内の形成外科医に非常勤医師となってもらって手術手技の指導も受けています。昨年は悪性腫瘍の切除が60件、植皮が30件余りあり、研修医にも豊富に症例があたります。図の写真は足底の悪性黒色腫の切除と2段階の植皮の術前、術中、術後の写真です。当科ではあたりまえのこのような手術でも、多くの他大学では形成外科が担当することがおおく、皮膚科では経験することがむずかしいのです。このように本学の皮膚科は他大学より幅広く皮膚科とその周辺領域をカバーしており、教室員は皆、卒業後6年から10年で専門医を取得し、勤務医あるいは開業医として活躍しています。一緒に働いてくれる若手医師を募集しています。

内側足底皮弁で再建した踵部悪性黒色腫
70歳、女性



【お問い合わせ先】

旭川医科大学 卒業臨床研修センター
 〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 TEL 0166-68-2198 FAX 0166-68-2199
 E-mail: sotsugo@jim.u-asahikawa-med.ac.jp
 ホームページもご覧ください。
<http://www.jimu.asahikawa-med.ac.jp/shomu/sotsugo/>